

新技術名：マルメロごま色斑点病に対する耕種的防除法（平成6年）
（剪定法の違いによる一次感染源の削減）

④・参

研究機関名 果樹試験場鹿角分場
担当者 水野 昇・大隅専一

I 新技術の解説

(1) 要 旨

○ね ら い

薬剤依存度を減らした省力低コスト防除法を確立する。

○経過と方法

ごま色斑点病が多発している現地マルメロ園を用いて、次のように試験区を設定し、剪定法の違いによる一次発生量に及ぼす効果を調査した。

① 切り返し主体剪定：主枝（側枝）の間引きと20cm以上の一年枝先端部5～10cmの切返し

② 間引き剪定：主枝（側）及び一年枝の間引き

③ 無剪定

○技術の要旨

① 本病の一次発生部位は、発育枝先端部付近の新葉数枚に集中して発病することが多かった。

② 大枝の間引いたのみの剪定に対して、一年枝先端を切り返す剪定を加えた場合一次発生量を50%程度減らすことができた。

(2) もたらされる効果

一次発生量が少ないため通常の薬剤の防除効果が高まるとともに、発生量に応じて防除回数を減らすことができる。

(3) 普及対象範囲

全県（マルメロ栽培地域）

(4) 普及上の留意事項

10cm以下の中短果枝の切り返しは行わず間引きのみとする。

(5) 発表文献等

II 具体的なデータ等

表-1 剪定法の違いによるマルメロごま色斑点病の一次発生差

処理区	品種	供試樹数	発病指数/樹	ブロック発病カ所/樹
1. 切り返し	スミルナ	39	6.18	2.59
主体剪定	在来種	11	2.36	0.36
2. 間引き	スミルナ	36	8.31	5.92
剪定	在来種	8	5.75	3.00
3. 無剪定	スミルナ	27	11.78	19.15
	在来種	15	11.00	9.8

注1：発病指数基準

0 - 発病なし

1 - 1葉当たり病斑3個以下の病葉が1樹に10葉以下

2 - " " " 11~20

3 - " " " 21以上

4 - " 4~10 " 10葉以下

5 - " " " 11~20

6 - " " " 21以上

7 - " 11~20 " 10葉以下

8 - " " " 11~20

9 - " " " 21~30

10 - " " " 31葉以上

11 - " 21個以上 " 20葉以下

12 - " " " 21葉以上

注2：ブロック発病一花叢葉又は新梢基部に数枚集中して発病している状態

表-2 マルメロ生育前期におけるごま色斑点病の発病推移

調査月日	果叢葉数		新梢葉	
	調査葉数	病葉率	調査葉数	病葉率
5.18	98	0	-	-
6.2	102	12.7	162	11.1
7.6	93	82.8	263	46.0
8.18	94	94.7	460	75.7

発行年月	9506	キーワード	159
基礎分類	35	キーワード	
作目名	249	キーワード	